(英和語羅馬字對譯挿入)
A translation to the English from the Japanese contained.

女學雜誌

驛遞局認可　明治十九年三月二十日　毎土曜日發兌　第四拾號

此の繪の說明は本紙中に在り

The Engraving illustrated in another page.

東京京橋區南鍋町貳丁目壹拾番地　發行所　績文舍

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學叢誌第十四號目次

●繪新聞の識者道に望む●內外雜報數件●內外烈女傳●武田勝賴の御臺所(前號の續)●パッテルソン夫人(標書の傳)●武昌縣の奇女(續稿)●英語の栞●群芳詞苑●雜錄●諸廣告數件

明治十九年三月二十日

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵税壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢
五拾冊	同金壹圓七拾錢	同五拾錢

但シ東京十五區內郵税不申請

明治十九年 女學叢誌毎土曜日發兌表

一月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
二月	六日	十三日	二十日	廿七日	
三月	六日	十三日	二十日	廿七日	
四月	三日	十日	十七日	廿四日	
五月	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
六月	五日	十二日	十九日	廿六日	
七月	三日	十日	十七日	廿四日	卅一日
八月	七日	十四日	廿一日	廿八日	
九月	四日	十一日	十八日	廿五日	
十月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
十一月	六日	十三日	二十日	廿七日	
十二月	四日	十一日	十八日	廿五日	

廣告料定則

一行二十七字詰	壹回分	二回分	三回分	四回分
自一行至十行	八錢	七錢	六錢五厘	五錢
自十一行至二十行	七錢	六錢五厘	六錢	四錢五厘
自二十一行至三十行	六錢	五錢五厘	五錢	四錢
自三十一行至五十行	五錢五厘	五錢	四錢五厘	三錢五厘

本舍ハ御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ叢誌配達不仕事に內規相定候に付御注文の節ハ必す代價郵税共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんとを希ふ○郵劵代用ハ御斷り申上候萬一郵便切手を以て代價御送附の節ハ壹錢切手にて一割增を乞

郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込ミ其爲替劵を本舍へ御送附可被下候

但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○繪入新聞の識者達に望む

大坂　花廼舎のあろじ堯道しるす

天降すに雨露をもてし地生はしむるに草木を以てす然はあれどもこれを培ひ養ハそばなどか美はしき花を開き亦頼母しき實を結バむやされバ此蒼生たる吾人とても幼なき時に教へ育てずば野山に茂るあだ艸の只延び廣かる計りにて亦何の用にの立べきや今已れ聊か此事に就て思ふ節を述むとすそは他の事にあらず今世にさのりと行ゑるゝ繪入新聞の事をは常々られたく思ひて止まざるが故よ今爰に之を弁まへむとそ

凡そ新聞たる者ハ唯に世の珍説奇事を告知が爲めの具にはあらずして其基つく意たるや國を愛し民を教へ以て世人の智識を進ましめむとの熱心より成立る者なるべし然ば努めて力を愛に尽さずバかなふまじきよさはなくて却て世の婦女兒等が風俗を乱すの媒介となるべき文を載するころうたてけれ扨て遠き東京ハ云はず我が住む里の浪花津に盛り極むる新聞に日々編出す續物語を見るに其趣向と文体は恰も演劇の種本を見る如くさなくば爲永が粹書を讀むに異ならぬ猥褻しき事件いと多し斯の如き有様よては兎ても民艸の弊風を正その龜鑑とはあり難かるべし況て今の世の女子等は唯さへ身の品行よろしからずして學の庭や教の園の差別なく三人四人が打ち集ひなば己が爲す業をもうち忘れて俳優等が評判をのみさゝやく者多し夫れかゝる形勢なれば此道にあづかり玉ふ方々ハ倘更心を注ぎ玉はずバ此悪き習慣を矯む事おぼつかなしと思ふにつけ今已れの此道の識者達に望みまゐらすは何とかして從來の續物語を改めて今少し高尙き事件を掲け亦之に換ふるよ我國及び萬國の歷史等をバいと讀み安くかつ面白くしてものしたらむには新聞よむ者も自づと高尙く那りゆき又學の庭よ行きかふ童女等が教育の一助ともなりぬべしと思ふなり望むらくは此道に從事ひ玉ふ世の識者達は雄々しき矢猛心をもて一日も早く此悪弊を改め玉はむ事を偏に祈るよなむ去なから愚なる僻心もて椽大の筆を揮ふ方々よ斯る事を申さむハいとくゝはぢかハしく嗚呼がましき言なれと亦理なきにもあらそと思ひしまゝに文の拙きをもかへりミずかくはものせしなればゆめなとかめ玉ひそ

◎内外雜報

○取調べを命せらる　去十二日文部省大臣より諸種取調べ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の事を各官吏に命せられし由なるが聞く所ろにては庶務局長折田彦市、秘書官木場貞長の兩氏は學位授與規則教員免許規則の取調べを」會計局長久保田讓、書記官服部一三、視學官吉村寅太郎の三氏は小學校學科及び其の程度の取調べを」視學官江木千之、同しく中川元の兩氏は中學校學科及び其の程度取調べを」東京師範學校高嶺秀夫、編輯局長伊澤修二の兩氏は師範學校學科及び其の程度の取調へ幷びに教科用書撿閲規則の取調べを」視學官久保春景、同く野村綱の兩氏は師範學校生徒募集規則同しく服務規則及び學校撿閲規則の取調べを」會計局長久保田讓、秘書官木場貞長の兩氏は教員恩給規則取調べを何れも命せられし趣きなり右は辞令書を以てせずして大臣より直に指令せられし由なるが蓋し小學令、中學令、師範學令等の發令あるが爲めに此の取調べを命せられしものならんとの噂さあり

○教員免許學力試驗　第二回中學校師範學校教員免許學力試驗は愈々來月一日より始めらるゝ由なるが受驗願人は今日迄に四百名ありといふ又た試驗場は文部省内の修文館一ッ橋外帝國大學講義室　東京師範學校　帝國大學等を用ひらるゝ趣きなり

○諸種の婚姻　大清國皇帝陛下の近々大婚の典禮を擧たまふ由は前號にも記せしが（是れ皇后宮を入内せめ玉ふとて淸曆一月十五日三品以上の方々の姫君を入候せしめ親しく御選擇あらせ玉ふ事なり）爰に廣西の總督テーチンと云へる人二人の最愛の娘を持てり容顏の美麗なる月にも花にも比べ難き程なれバあはれ然るべき將相貴人を聟に取りて一家の繁昌を圖らばやと思ひ居たるに此回の大婚につき普ねく八旗外任の各官文職五品以上武職四品以上の令娘を北京へ召させらるゝと聞き父のテーは大に悦び即ち上奏して此大典を擧げ玉ふを賀し次に小臣の女兒才拙なく貌醜けれ共亦た紡績の事にならへり願くは後宮に入れて箕箒の役を執らしめんとか支那流に卑遜して請ひ奉りしに即ち上諭し玉ふらく朕汝の奏請を嘉みす宜しく其女を送りて北京に來らしめ選擇の日を待たしむ可しと京報に載せられたり斯の如きは大淸國皇帝陛下にして能くし玉ふべし其餘に至りては新聞の廣告に依賴して良嫁を求むるが多し近日の上海メルクリーに「姻婚」と見出しを置て「一人の男あり倘年若く氣力確かなり、支那に於て數年間住居せり而して當時好地位を占めたり去りながら目下歐洲へ旅行し難き場合あり此の人妙齡の女子と婚姻せんと思へり或は

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

子の無き寡婦にても可なり共に多くの持參金を要す思召の方あらば上海エコー新聞社のP,O,T方まで申越さるべし但し取極めの上は變改なからんことを求む云々と記るしたり此も良緣の有るならば羨ましき婚姻なるべし又近頃の某西字新聞に、金もなく、能もなく、地位もなき醜男子あり去ながら一人の妻を得んと思へり有志の婦女は某々所に迄申込るべし、と廣告せしあり亦た一見識の求婚法なるべし、夫に付き爰に最も笑ふべき咄しあり或る官吏一人の妻女を得んと欲し或る新聞に廣告して曰く一人の男當時某の官衙某等官に奉職せり此人男が好くて金持ちで且つ學藝才氣あり人に接するに慇懃よして最も懇切を極めたり云々と記せしに看客此を見て評して曰く此の廣告は悉皆僞りなり第一に男が好くば俳優となるべし決して其等官の薄給に安んずべからず、又其等官の月給は何圓なり若し賄賂を取込むも不正の所爲あることあらざれば決して金を持つ謂れなし況や近日の官吏其入る方は出る所を償ふに足らず動もすれば連帶負債融通の一法に由りて其呼吸を保つもの間々あるに於てをや又學藝ありと云ふも虛なり若し眞に此あらんか某官衙の如き俗務のみを扱ふ場所に居るべからず又斯る俗吏に立交りて其不得意の務を執り僅に餘喘を繫ぐ才氣といふも知るべきのみ況や人に接するに慇懃にして懇切を極む抔とは一目して其詐僞なるを看破すべし彼の鼻下髯を捻くりて往來を歩く体を見よ又た我々平民に應接する樣を見よ何が慇懃懇切の体あるべきや故に此廣告何百何十何字一字として本當の文字なし斯る廣告は其婚を求むるに非らずして却て姻を拒むものなりと笑ひしとぞ酷なる哉評や我國ならば必らず之に反對する見解を下すなるべし（右三件本年三月十四日東京日々新聞）

○福岡婦人協會　この程筑前福岡にては有志の妻女娘子達が同志相語らひて一の協會を設け福岡婦人協會と號け既に會員も四十名ほど出來毎月一回づゝ集會を催ほすに追々加入者もありて餘程盛んなる有樣なりと同地の人よりその緒言と規則を送り越したれば左に揭げて世の婦人方の一覽に供すべし

福岡婦人協會の緒言

今はむかしとかはりゆく世のありさまの驚くばかり進み來て外國のまじはりも日々繁き事とはなりぬされはかけまくもかしこき皇后の宮の思召しにて先頃ろ東都に華族女學校を起させ給ひかたじけなくも士族平民のわかちなく入校を許させ給ふとかまゝ外國の婦人にはむやくも女の道を知りて國につくせる程も亦しられ侍りぬよりて思ふに女とて只むかしのまゝ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

に家内の事のミとりまかなひてたれりとなし國の爲め亦心盡くし親夫を輔くる事もうみの事を敎ゆる事も辨まへず世間のさまも知らずしてハはづかしき事ならずや實に女の務めは最重く身分もさらに卑しからぬをよくこの道を辨まへて自ら地位を高ふして夫を輔け子ををしへて皇國の爲め力らをつくさん事ハまことに女のつとむべき事にてこれこそその本分といふべけれきのふけふとすぎ行く月日もまたかへりこぬものなればこれを思へば忙はしく又なげかはしくは侍らずやよりて玆にあまた同志の人々打寄りて談話演説の便りに依り先づ尋常の事柄より次第に講じ漸々に女の道を求め得て外國の女に恥ぬやう思ひを起して此會を催はせるなりいかに志ざしある方々に女のさしすぎおこのましととがめ給ハであれこの事を嘉して同じ心ろにつどひ來給ハんにはいかにうれしう侍りなんかし

福岡婦人協會申合規則

第一條　本會ハ婦人同志者の組成する所ろにして處世の要法を講じ務めて之を應用するを以て目的とする事〇第二條　本會を福岡婦人協會と名くる事〇第三條　毎月第二日曜日適宜の所ろに寄合て談話の會を開く事〇第四條　開會毎に有識の人を聘して客員となし敎育衞生家事經濟等都べて女子に必用なる演説を依頼し疑問の廉々を質問する事〇第五條　會員ハ互ひに交際を親密にし情誼を厚くすべき事〇第六條　會員ハ諸事質素を主とし虛飾を戒しむる事〇第七條　品行正しき婦人ハ入會することを得る事但し會員の紹介を要す〇第八條　會員ハ會費として一ヶ月金五錢づゝ出す事〇第九條　一家内より會員幾人ありとも會費ハ一人前に止まる事〇第十條　主事二人會員中より撰びて庶務會計を擔任せしめ其他毎會五名づゝ順番を以て之を助くる事〇第十一條　談話演説とも肝要の事ハ筆記しおき時々印刷して會員に頒つ事〇第十二條　本會より招待するの外一切男子の參會を斷はる事〇第十三條　此規則ハ會員の申し合せに因て變更することを得る事

（本年三月十五日時事新報）

〇女子原泉會　此處にも亦婦人會の設けある事我國の爲めに甚はだ賀すべき次第と存ず備前岡山よりの報知に今度同地の有志者が協議し婦女の婦女たる道を講じて大いに婦女子の風俗を改良せんとて岡山女子原泉會と云ふを設立し去日榮町裏手なる濟美館にて第一會を開きし當日ハ發起者總代として中川横太郎氏本會の趣旨を演し其の外學士敎員等數名の演說

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ありて頗ぶる盛會なりし以後陸續加入を申込む者ありて目下二百五十余名ゟ及びたりとか猶この上の盛大を望むるなん

○獨逸國東洋語學大學校　此の頃獨逸國に於てハフユルスト、フオン、ビスマルクの慫慂に依り東洋語學大學校を伯林府に創立するの計畫あり同校ハ東洋地方の今代用語を敎授し又た外交官となりて東洋地方に赴任せんと欲する青年者に特別の敎育を與ふるを以て其目的と爲すと云ふ（本年一月十二日露國ジユールナール、ド、センヘテルストブール　本年三月十二日官報抄錄）

○一種の共進會　繪畫だの乳牛ぞのと共進會にも品數多くありしが是ハ又た一種變つた共進會なりとて大坂より態々申し越せしに今度大坂府會議員大西利兵衞、北田音吉の両氏が發企にて家業勤勉私立共進會と云ふを設立し既に九ヶ條の規則を立て事項數ヶ條をも編製なして府知事の認可を得られたれバ來る五月中二週間開會すると云ふが家業勤勉とハ何に面白き共進會ならそや其の規則等ハ追て申し送るべし云々とありけり

○耕雲先生の磊落　大坂博物場の御雇ひ畫工櫻井耕雲先生ハ先年より日數五百日の定めにて大和法隆寺金堂壁面の佛畫を寫し取らるゝ事人の知るところなるが彌々丹精の効積りて本年七月中にハ成功するよし先生ハ稀有の畸人にて風致洒落なること池大雅堂に相似て常に揮毫中とても此頃ろハ月ヶ瀬の梅好らんと風と心ろに浮めバ誰にも告ず其の儘にして廿里三十里の道も頓着せず往きて十分風景を眺め又た寫生し何の間にか歸り來て再び筆を採ける或時ハまた何國の誰ハ斯樣な名幅を所藏すと聞けば直ちに其の所ろに赴き先方ハ如何なる人にも構はず自宅同樣遠慮なしに振舞ふなど更ゟ世の名利などにハ頓着せず實に世外の人と云ふべし其故ゑにいつも囊中空しく今度東京ゟ東洋繪畫共進會の設けあるに先生にも何か出品せよと其筋より沙汰せられしと云ふ事を或人が聞込まれて先生是ハ必らず畫せたまへと勸むるを先生ハ打笑ひ畫くハ好が私ハ肝心の絹を買ふ錢がないと云ふにイヤ夫ハ心得居ります兼て調へおきましたと語の下に美ハしき絹幅を出せど先生熟く／＼と見て何を畫ふぞ又た古佛畫でもあるまいと少し考へ居られしがスツと立て何れへか徃かれしに又先生がきつい氣まぐれ何處へ往たまひしぞと噂して二三日を經と瓢然立もどられしに人々打寄りて此間だハ何方へ赴きたまひしやと問へども先生只笑ふのミ何とも答へざりき然るに其の後四條邊の者が或人の許へ尋ね來り先日祇園の某がし茶屋へ汚

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

い衣裳の妙な人が來まして新地中の藝子さんや舞子さん達の極美くしいのばのり呼なはッて其中でも一ち顔立から衣裳まで立派なを見事畫き寫しなはつて往シャりましたが合點のゆかぬ客じや御坐りませぬかとの咄しに若やと其客の様子を聞糺すと如何にも耕雲先生らしきに早速先生に逢ひ云々の事侍らひしやと問へバ先生首頷きながら私ハあの日祇園の美人をも寫し得て如意が嶽より叡山に登り彼方此處山水の光景を見て來ましたと語られしとなん此事いつか他に漏て此度先生が出品ハ祇園美人と東山の圖ならんと專ら評判せりとぞ（本年三月十四日東京日日新聞に據る）

◎内外烈女傳

○武田勝頼の御臺所（前號の續）

土屋かさねていふようハ女の分けなきとへこれとかやあの嬰兒を養育し父兄が草の影をとハせんにハ幾バくの忠たるべきといひたれども更に領承せざりければ土屋頼もしき被官を近づけ云ひけるやうハあの女親子つれていづくへも忍び置き尼にもなして自からが草の影をとはせよと云ひければ彼の男か申すやうにハ口惜き仰せかな何方へも往きてハ何時の用に立つべきぞ思ひも寄らずと云ひければ自から馬に鞍を置き女房を抱きのせて押へて男にみずくち取らせ馬のさむづに鞭をあて十町ばかり追ひ出してぞ歸りたる其の後御臺所御最後も近づきぬれば御心はそくや思しめしけん故郷相摸へかくならせ給ふ言の葉を如何なる厂の便りよも言傳てバやと思しめして斯くこそ詠じ給ひける

かへる厂たのむぞかくのとの葉を持ちて相摸のこふにおとせよ

また如何よもならせ給はんのち御兄弟の御歎かせ給はん事を思しめして

ねよたて〻さろな惜まむちる花のいろをつらぬる枝の露ひそ

と遊ばしければ御前なりし女房たち御最後の御伴申さんとて斯くこそはんべりけれ

咲ときはかずにもいらぬ花なれどちるにハもれぬ花のくれかな

斯くて敵まじかく來りたるよし申しければ法華經五の卷たてまつれとめされて御心玄づかに遊ばし給ふ既よ御經も過ぎければ勝頼土屋をめされ御臺所の御最後の御介惜を仰せければ承たまはると申して御前にハ出でけれども始めて見たてまつるに御年のころ廿のうちと見えさせ給ひて色々の装束めされ容貌美麗の有様ハ昔しの楊貴妃衣通姫吉祥天女と申すと

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

も斯ほど娜娟れたる形ハましまさじ何くへ劒を立てまいらせんと呆れ果てゝ居たりしに御躬から御守刀を抜かせ給ひて御口に含ませ給ひて俯向に伏し給ふ勝頼此のよし御覧じて急ぎ立ちより御介借をたてまつり御屍骸に抱き附き暫しハものをも宣まハず土屋兄弟三人ハ御伴の女房たちの介借とりどりにいたしける筭をみだせし有様にて譬へん方ハなかりけり

附て申す前號標書の模様本傳と違へりこれ書工の誤まりなれバ謹みて看官の御見容しを乞ふ

○パッテルソン夫人（標書の傳）

頃ハ當十九世紀の初めなる埃及伊太利の戰勝者佛蘭西の第一コンスル、ナポレオン、ボナパルテの英名四海に轟きし際其の末弟ゼロームハ佛艦の提督となりて紐育府にこそハ來りけれ到處懇待優遇を受け繼でボルチモール府に來りしが府民の接待大方ならず或ハ晩餐或ハ踏舞或ハ夜宴に招きて饗應しゼローム提督に接するを以て榮譽とせしハ盛んなりける事共なり當時該府に居住し米國獨立檄文記者の一人にして其の名を人に知られたるサシユール、ナエース氏ハ一日提督を別莊に招きて饗應しけるが其席に一人の婦人あり此婦人ハ其名をエリサベス、パッテルソンと稱し齢ハ未だ二九に滿たざれども絶美と智惠と機智とを以て其名をボルチモール府の社會に知られたる婦人なり提督ハ圖らず此の婦人に邂逅せしに如何なる月下氷翁の惡戯なりけん相見て互に捨て難き思ひあり愛情日々重なりて今ハ親戚朋友の諫めも更に耳に止まらず提督ハ此婦人ならでハ他に娶るべき女なしと思ひパッテルソン令孃ハ生涯他人の妻たらんよりハ寧ろ一時間なりともゼローム、ボナパルテ夫人たらんと決し遂にボルチモール府の僧正及び府尹其他親戚朋友等立會の上結婚する事となりぬ是ハ千八百三年基督降誕日の事なりしとぞや抑もパッテルソン令孃の父といふハボルチモール府第一の豪商にて紐育府のアストル氏費府のギラルド氏抔と肩を並べ米國獨立戰爭の間にも屢々私金を出して軍費に供せし事あり華盛頓及びラフヰットの諸名士とも交り殊に深かりし人なりといふ斯て提督ハ結婚の後ち新婦を携へて東北の諸州を漫遊せしが名にし負ふナポレオンの弟なれば費府紐育波斯頓を始とし到處厚遇を受け暫くハ樂しき月日を送りけるが歡び極りて悲み生じ樂み盡きて憂ひ來るの數に漏れず斯ばかり思ひ合たる夫婦の中も結婚の夢未だ覺めざるに邪慳の劔刃に鴛鴦の羽を絶たるゝ事となりさるぞ哀れなれ其故如何と尋ぬるに原來此の婚姻ハゼロー

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ム提督の獨存にて爲せし事なればナポレチンはこれを聞て大に怒り直に佛國に歸國を命じ若し命を奉せざれば脱國者を以て待つべしと令したるのみならず新婦を携へて佛國に來ることを禁じたり提督はこれを聞きて大に驚き恐れ直に佛國に歸らずして尚ほ米國に滯留し兄の怒の霽るゝを待ちけれども斯てあるべきに非ざれば長からぬ緣なりと思ひ詮らめ愛情の忍び難きを割て遂にパッテルソンを離別し兄の命に隨ひて歸國するにぞ決しける夫人は兼て斯くあるべしとは思ひながら今更の樣に思はれて前後不覺に歎きくれども如何ともすべき樣のあらざれば遂に其の離別を諾し夫は長き海路に就て激浪怒濤に旅愁の夢を驚かし妻は空閨を守りて秋夜の長きを恨むる場合となり相思限りなきも其の愛情を遂げ難き苦しき離別を爲したるぞ憐れなれ斯てゼロームム提督は兄の嚴命に從はざるを得ざれば最愛の夫人に別れ軈て旅裝を調へて軍艦に打乘り日を經て佛國にぞ歸りけるナポレチン帝は其命令に從ひしを愛で佛帝國の親王に拜し海軍大將に任し間もなくウェルデンボルク王國の內親王と結婚せしめ封じて該國に王たらしめたり

（本年二月四日同月五日東京日々新聞）

○武昌縣の奇女子（積稿）

小龍窟主人譯

封氏の嫁ぎたる張秀才の家は縣中の著姓なれば素封の富にはあらざるもまた然るべき金穴にして奴婢十餘人を召し使ひてんと富饒に暮らしけるに封氏は姿貌の窈窕なるには似ず其の性は最と雄々しければ左かも能く婦道を弁まへ知りて絶えて其の貌に誇り其の才を衒ふとなく翁姑を敬まひ夫婿を輔けてをさ〳〵家事を治めしかば婦姑勃谿の誹語縣裏に聞ゆるとなく鸞鳳和鳴の氣象家內に溢れて樂しき月日を送りけるが榮枯盛衰は黃粱一炊の夢なれや名にし負ふ強賊李自成が手の兵既に湖南の地を押領して忽ちに湖北へ押渉り先づ武昌の縣を取圍みて瞬く間に攻め落しぬされば一縣の人民狼狽へ呆れて騷動ぞるは大方ならず老いたるを扶け幼きを摟き抱きて辛き一命を助からんと右往左往に逃げ迷ひて却つて賊徒の刃に罹り非業の最後を遂ぐるもの多かり張秀才の家にても一家の男女打ちつどひ首をあましめ眉を攅めて如何はせんと打ち譚らへど徒らに時をうつすのみにて美き思案の出づべくもあらず兎角する間に早や一手の賊兵家の內へ乱入して情け容捨もあらく〳〵しく上下男女を取つて押へひし〳〵と縛めてまづ金銀財寶を捜し出だし然る後此奴らを斬殺せやと犇めきたる爰に此手の兵を頷したるは年尚は少き賊將なりしが封氏の姿貌は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

と窈窕に氣高くして更に塵寰の人とハ思ハれぬまで﨟闌けたるを一目見るより魂蕩け心浮かれて恍惚として稍〻暫らく打ち眺めてゐりけるが忽まち聲を振り立て〻物共速かに此の婦人の縛めを解きて我の前に連れ來れと下知しければ承たまハりぬと應へもあへず雜兵らハ封氏のほとりへ立寄り縛めの繩をとく〱急がし立て〻賊將の面前へ押しすゆれば賊將ハ殊更ら面を和らげ封氏を勞はり慰さめていひけるハ我れ汝の容色を愛づるの餘り汝の一命をゆるさんと思ふなり然らんにハ汝もまた我の心よ隨がふて軍中のつれ〲を慰めんや世の諺にも落花若し情けあらふは流水また心なからずといへは此の儀肯がハんや如何にと打ちつけ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

に掻き口説きければ賊將の左右に侍べる雜兵ぷれいふも更なり縛められたる一家の人々心なき奴婢らに至るまで封氏の荅へ如何にやと片唾を呑んで伺がい居る中にも張秀才ハ最愛の妻の事にしあれば斯る危急困迫の折柄にも愛着の情の遣方なさに妻ハ操を破りやすると逆らふて命を隕しやするとす々に心を碎きける其の時封氏ハほろびれたる氣色もなく身を投げ伏して賊將を再拜し妾ハ此の家の乙女にていが未だ定まる夫もいはず將軍の此情に依りて御膝近く侍べらんハ優曇華の花咲く時を得たるが如し願ふてもなき幸ひながら將軍若し我が親兄一家を殺し給ハゞ將軍の御情ハ忘れがたきも妾獨り生殘り候ハんと義として情として忍びがたきところなり此の事よきに計られせ給ハば情けの上の御情なりと云ひ畢りてまた身を投げ伏し袂を顔に押し當てゝよゝと泣入る有樣ハ風にもまるゝ漁村の柳雨に惱める海棠の花はづかしき風情なりされば件の賊將ハ既に封氏の美貌に愛でゝ心身綿の如くなるが上に今また封氏の情願より己に隨ハんといふを聞きまた其の歎き萎るゝを見て腸を斷つ想ひをなし乃ハち封氏を慰さめけるハ汝さのみ悲しむべからず我れ既に汝を娶る上ハこれに繋がる汝の一族ハいかでかこれを殺すべきぞ少しも憂ふる事やハある速かに涙を収めて我れに笑顔を見せずやとて極めて打解けし風情なるにぞ封氏ハ忙ハしく涙を拭ひ乱れし衣服を搔繕ろひ恩を謝して且つ云ふやう妾今日より將軍に隨がひ奉る以上ハ即ハち是れ將軍の御内人なりされば將軍妾の面に愛でし一家の性命を饒し給ふといへども萬一將軍此の處を立ち去り給ふのち再び他の軍兵來りて我家へ乱入なし我等一家を殺害せんにハ妾が心盡しも水の泡にてまた將軍の大恩に背きまいらする道理なり願ハくハ將軍始終を保全するの計を案じ給へといふに賊將ハ打ち點頭き此の事更に氣遣ひなし我れ汝一家の死を宥したる證據として割符一面を與ふべし縱令他の兵來るとも此の割符をぞに示さんにハ更に乱暴あるべからずとて一帳の割符を取り出して封氏に渡しやがて陣中へ歸りたる上にて迎への人を遣はすべしとて二人の雜兵を止めて此家を守らせ遂に陣中へ歸りければ封氏ハ賊將の跡を見送り其の後影の見えずなるまで眺め入つてありけるがやがて瓦破と地上に倒れて聲をはかりに泣き叫びぬ

（未完）

記者白す本號の記事もまた長びきて挿畫の次第に及び難ければ宜しく次號に於て解說すべし看官例の筆僻と御見宥しを希ねがふになん

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○義隆が妻の事

大坂　菟道春千代　郵寄

大内義隆が日頃ろ通ひし一人の女房ありけり或時義隆上京の留守に貞子と云ふ奥方より其の女房が許へ色々の小袖いくつか贈り文して久々の在京なればそなたにも嘸待ひさしふ侍らめなど細々したゝめて末にこれ戯むれなりとして

身をつみて人の痛さを知れける戀しかり鬼戀しかる覧

とあるに女房つく〴〵見ていたく恥ぢ其の儘奥方の前にまゐりて涙をながし斯ばかり御情けの厚き御方さまとも存じ侍らす是まで外に打過しゝこと勿体なし殊よ御身の上より妾が心を酌たまひし御歌ありがたくも又恥かしく侍べり此上ハ我君おん歸りありて譬へ妾か許に御入せらるゝとも斯る御方の冥加のほども恐ろしとて其場に髮をきりて尼にならむとせしを貞子おし止め樣々になだめ諭してこれ我の身の過なりとて是よりいと懇ろにいたはり遣しとなん

編者云く妻妾の間だ美くしからぬハ大方の事にて此の貞子の如きハ多く得がたき者と云ふべし斯る妻を持てる人ハ一生の徳にして何なる財寶を持るもに優れり附て是ハ古き物語りあるが大和の國の某のし妻ハ夫に仕かへて能内を守りなり或時夫一人の妾をいざなひ歸り壁一邊を隔て妻の閨とならべ置き毎夜妾のもとに通ひて樂しみを極めけるされ共妻ハ妬みの色露ほどもなし或夜鹿のものなしげに鳴ければ夫壁を隔てながら云ふ樣たゞ今鹿の鳴たるを聞しやと妻こたへて聞はべりぬといふ夫かさねて何が聞しとありければ妻

我もしの泣て人に戀ふれし今社余所に聲をのみ聞

と讀と夫のぎりなく哀れかり頓て妾を逐出だし妻と末ながく暫りけるとぞ

◎英語の栞

○泰西箴諺の直譯

(甲)㊀學ぶ㊁べく㊂決て㊃過り㊄古く㊅無し

(乙)㊀家(の)㊁前(よ)㊂眞珠(を)㊃投ぐる㊄勿れ

(丙)㊀幸福、運命(と)㊁剛毅者(を)㊂助く

(丁)㊀新らしき㊁箒(と)㊂清麗(よ)㊃掃ふ、拭く

MAXIMS & PROVERBS.

泰西の箴諺

(甲) Never㊂ too㊅ old㊃ to㊄ learn.㊁ ㊀

〔意譯〕學問するにハ老たりと云ふ事なし

(乙) Cast㊃ not㊄ pearls㊂ before㊁ swine.㊀

〔意譯〕家ゝ豕たよ眞珠

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

OSANAKI TEMMON-GUKUSHA.

Sen-sichi-hyaku nendai no koro, Fransu no kuni ni, Gassendi to nan ieru natakaki tenmon-gakusha arikeri. Osanaki toki yori yonaka ni oki-idete tsuki hosi wo nagame Kō-takuru womo oboezarisi koto tabitabi narisi tozo ii-tsu-tae-taru; tosi nanatsu to iu toki, asobi-tomodachi to mono-ii arasou koto koso okori-tare. Sowa aru yo no koto nari-keru, ronaji tosi-goro no kodomora yori-tsudoi-taru uchi hitori no kodomo, "Kano kumo no uchi ni yuku tsuki no hayasa yo," to iikeru wo, Gassendi wa, kiki mo aezu, „are koso tsuk.no yuku niwa arazusite, kumo no yuku nitezo arunare," to iikeredomo, makoto to surumono nakari-kereba chisaki Gassendi wa aru tachi-ki no moto ni kodomora wo tsure-kitari eda no sukima yori mise-keru ni, ugoku to omoisi tsuki wa ugokade, ugokazu to omoisi kumo koso ito hayaku yuki-sari-kereba hajimete kodomora wa Gassendi no kotoba wo makoto to si, kodomo-gokoro nimo sono kasikosa wo kanji aerisi tozo.

Geni, sendan wa futaba yori kanbasisi to wa mube nari-keri.—*Doitsu bun yori yakusu.*

(丙) Fortune favours the brave.
㊀ ㊂ ㊁

〔意譯〕幸福は剛毅に任り

(丁) New brooms sweep clean.
㊀ ㊁ ㊃ ㊂

〔意譯〕新たなる箒は能く拭く

◎群芳詞苑

明治十九年三月五日御兼題　衣通姫

棹姫の霞の衣そきとはり世にわらはれし山櫻のな　正風

望月のたれる御影やみけしよも包余れる光也けん　慶永

紫のおなし由緣にこかくれて香ふも哀れ藤原の宮　敦子

山櫻かそみの衣そきとはる光や雲の上に見えけん　道子

包みてハ玉の光の隱るゝを照とはる名の高き君哉　有住

照通る君か光よ呉羽鳥綾のみけしも色なかりけん　有經

立迷ふ秋のみ山の雲をよきてちぬの海邊に澄る月哉　景敏

濱もよるちぬの海邊の姫松の待程いかに久のりけん　正夫

雨　風月翁

月の夜半こそおもふくまもなく心の底もすみわたりぬる物なれ然れど暗の夜の空晴て星の光りさやかある中に風高く吹かふハまた増りぬるやうに覺ゆるといへば雨ぞいと増りぬるをといふ何にと問へばいでや旱天の雨ハ更なり草木の花咲ゝのるも皆この惠みにてろわんなれ又その感情のふかさをいはゞ今日ハ元日なりけりと云ふに雨ろぼ降て霞わたりたるハげに春かなとそおもふめる師走の三十日のぞやのに降たるも春待

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

がはよていとをかし渾て春ハ雨こそのどかなれ軒端より霞わたりていと細やかに降れるの衣うるほせども降とは見えず軒の玉水も間遠に音して住捨し蜘の巣よ玉ぬく景色庭の面のかれふの庭に緑やゝ添行も柳の糸の動きもやらで露そふも共にいとのどかなれ燈火かゝげても何となくひかりえめりたるに鐘の音のほのかに響きくるも心すみわたりぬる物ぞかし其外梅の香のじめり夜ふかくにほひわたるも花にうしとかこちぬよも哀れハありけり春も老行くころ蛙の時得かほにすだくもをかし郭公の初音いかにと思ふころ村雨のはらはらと降出たるも五月雨のいく日も降くふして文の巻々くりかへしつゝ居たれバ何となく世中のとにも遠さかりぬる心持ぞする又暑さにたえかぬる頃ろ雲の張り出る勢ひありて風一しきり吹おちたるに柳蓮葉なんどの葉うら白く見せたるも涼しやがておほきやかなる雨の間遠に落たるが後には頻りよ降來て物おとも聞はず土のよほひきたるもいと心持よし軒端ハ玉の簾かけたらんやうに玉水の絶間なく落たるに庭ハひとつみつ海となりてわるに瀧おとしまた水走らせたるに人々しはし物云ハて打守りゐたるもをかし頓て雲うすくなれば池の面にはかぞふるバかり雨見ねて小鳥なと庭へをどり出て餌拾ふさまなり初め

雲の立出し方ははや空の一入みどりよ見ねて虹なんど見ゆるに木ゝのみどりの庭潦にかげ見ゆるもいと涼し老たる女など雷公のれとに驚ろきてとい出たるがけふのハ若かりしときのごとよく晴よけり今時のハかくはるゝこと稀なりなんどはや繰言いふもありかれはかくおれてしなどいひて相互に笑ひどよみつゝ今日ハ蚊も少なかるべし雷のおともいとかすかなりこの頃の暑さも忘れぬるとて端近かふ出れば夕月の光りさしわたりて草木の露も玉なすに肥ふくれたる蛙の物待ちがほに空打にふみてふつかなる音になくもをかし秋くるころの雨ハきのふに變りて何となく寂し荻の上風外山の鹿の音なんど月よりも身よしむ心持ぞする常々聞馴し筧の水の音まても哀れふかくこそ月の前のむら雨もまたをかし況て稍夜寒の頃鳴からしたる虫の音の雨の小止にかすかなる聲して枕ちかく鳴よるも哀れなりあの雨に木々も染なんとおもへバ茸なども生ひいでなん栗もはやおつべしなどゝ幼童の物寂しげに燈火にむかひつゝ云出るもげにさまざまなり夜深き鐘の音の打濕る物からさすがに秋ハ聲冴て聞ゆるに待夜わかれの思ひまでもおもひ出かねつゝ人の心をも哀れとおもふばかり感情ハいとふかゝりけり紅葉の染そふも白菊の移りゆきてひと盛り見す

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

るも尾花の露重げに打凋れたるに龍膽のうらみふかく咲たるあたりもつぎ〳〵し朝貌のみな枯ふる中にさゝやかよわかう咲出でたるハ晝過たるまでもつぼみおくれたる又哀れなり野分の風におどろ〳〵しきものから雨ハ夕立におとらされど流石よ哀れをそふるは秋のならひなるべし時雨のさとおとして夕日に白く降くるも又おとかへて枕訪ふもをかし月よりも暗の夜よりも哀れふかき物には侍らずやといへばかうやうに云ならべてハ實にもといふべかふんか一年も降る心持して詠見れば此雨はおとつ日より降いでしをと思ふこゝろハ變ふじと心の中よ思ひて聞居しもまゝをかしのりけり

○蛙聲幽　　北越　二宮孝順

せきいれし苗代水になく蛙また聲ほそしそるのゆふくれ

○寄國祝　　同

天地と共にさか入る千早振かみのおさめし日高見のくに

○記遷堤花夕之遊　　高　雲外

雪耶非雪、雲耶非雲、漠々一色吾知爲共爲花也、月色射水、波光浮花、與水映發、謂之水晶宮乎、將銀世界乎、一身飄々恍若跨鶴御風遊於玄圃閬苑間者也、光色空明之中、回顧裴回、間不見人、唯覺冷香沁肌骨而已、

○岩村君の詩　左の數首ハ今度北海道廳の長官に任せられし岩村通俊君の作なりと本年三月十二日の東京日々新聞に見えたり

明治十九年一月。廢北海道三縣。新置北海道廳。以通俊爲其長官。乃以二月十八日發京。以其二十五日達札幌任所。宿豊平館偶有人來示雜詩五首。此夜百感蝟集不能眠。因枕上次其韵。記我志以贈常野伊藤二子。　岩村通俊　草

京洛名利地。營々又擾々。學歐米語言。弄庭園花鳥。較之北門司鎖鑰。氣宇孰大孰是小。

涓埃未酬國。歲月杳々流。五十載半白。何若爲此游。深上川無人境。近文山山築高樓。

（未完）

○雜報

○ワールン氏西洋料理法の翻譯（前號の續き）

肉商人より肉を持參するときハその肉の目方を記したる切符を持參するものなるが一週間毎にこの切符を取纏め其の目方の合計ハ賄帳の面と符合するや否を撿查しまた兼て食料室に權衡を備へ置き肉類を持參せし時はかならず目方を掛け改めて持參したる切符よ記しある目方と相違なきや否を撿查す

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

こと肝要なり
常に總て食品の相場に心掛け時としては近傍の各店を聞合すことあるべし日用品の相場は店により相違する事往々ある事なれば決して一店の相場のみに心をゆるして依賴する事なく處々聞合したる上にて買ひ入るべし賄を司るもの自ら能く此相場を知り居ざれば其他何事もこれに準じて不都合多かるべしまた品物の善惡を見分くることにも常に心を用ゆべし又賄方たるものは普通の暮し向にても一人に付何品にても一週間平均何程を消費するものなりやを知らざるべからず固より老人と壯者或は婦人小兒等夫々相違ありて一定し難けれども大略は心得居らざるべからず之を心得居る時は食品を冗費することなく又前以て買置をなすに甚だ都合よし故に常に實際に就て一家の消費高を經驗し品種毎に一人一週間に何程を消費するとを研究すべし左に世間普通の平均消費高を掲げて參考に供すべし

(以下次號)

○烈公の玉語　大坂　菟道春千代　郵寄

先君先祖の恩を報はむとならば眼前の君父に忠孝を盡し候外有之間敷候万一右之外に忠孝の道ありと云ば皆是異端邪說と存じ候間忠孝一致と相辨へ心得違ひ無之樣致度事に候

手枕の夢　(續き)

玉むし姬と名付つゝ育立たまふに老たがひて光りのどやさゝめのたち慕はぬ虫こそなかりけれされども玉虫定まる夫の外けして余なる虫には見ゑ得しと一首の歌をよみ玉ふ

てる月に光わふそふ玉虫よ心なかけぞ野邊の虫ども

げに心ろなき虫めらを近付けざる其の爲に毒々しきが然るべしと蝪の局を附れかれ玉虫の御座には樟腦の砂を敷わまたの虫を附たまひいつきかしづき玉ひけり又執權の虫とともには俸兵太米虫はたくの鬚長其外數の虫ども羽をつふね鬚をなで草の御殿にすだき寄る其比ろ泉水のかたほとりに澤邊の螢ときこえしは光る源氏のいにしへの螢の巻にこゝろをよせ優にやさしき虫なるけり付隨がふ郎等には渡邊の源五郎むし坂田蚚蜴頭おなじき一子屋守の正臼居の筬むし浦邊の鈴虫中にも平井のひとり虫何れもきこゆるつはむしなり又築山の主とをばわらがねの土蜘とてわくまで不敵のあぶれもの類をもつて集まる虫にはくろがねの蜈左衛門犬せゝりのだにの助菜虫芋虫柚のむし其の外數のあく虫とも日夜の出仕隙もなしさればにや螢の君かの築山の奥にある熊野まうでの折からよ玉虫姬のおすがたいがきの隙よりかいま見て猶はねぬらす雨の夜

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の鳥一口も何ならず猫臥そ野邊や小鮒よる池の千尋に沈むとも思ひ懸かし玉ならハ羽ハあれどもかちとだしみちびく虫もと待おりふし愛ゑ紙虫といふ虫古き草紙に住なれていともやさしき虫なれハ玉虫の御方へ常にとふらひ參りしを螢ひろかにのらひ紅葉重ねの薄葉につく／＼しの筆をそめて書たる文こそやさしけれ

中々に戀に死すは桑子にそ成べかりける玉ゆえに涙つらぬく戀ごろも綴りませてふきり／＼す鳴くや霜夜をあかしかね晝ハ日ぐらし暮しがね我たましゐハ身をはなれ君がのたにも飛びしのとび立つばかりにこがるれ共佐野の舟はし取はなし命かけたるひを虫のきゆるばかりぞしら露の玉の緒のきみさまへ澤邊の身よりと書とゞめ奥に歌をぞ書れける

音もなく思にもゆる螢社鳴く虫よりも哀なりけり

物れもへバ澤の螢も我身より　わくがれ出る玉とぞ見る　（未完）

○蒲燒

鰻親子づれにて大川筋をだん／＼泳ぎ駒形の前へ來ると子うなぎが「お爹さんやブン／＼と旨い香ひがするねへ買ておくれとねだるを親うなぎアレハ蒲燒と云て泣子を醤油の附やきにするのだ早く斷語ぬとこハひよと欺しながら泳ぐうち子鰻子心ろにどんなに旨いものか知らんと尾頭をぺろりとしやぶつて見れば成程うまいに堪らずだん／＼喰ひ／＼して頭ばかりになり「お爺さんやァ、痛い／＼と泣だすと親父「ソレ見ろ寧ろ猫までも喰してしまへ

○西洋料理

ろく／＼西洋料理を喰しめぬ人たちが時分どきに或る洋食店へあがり込ミ「オイ姉さん大速だから何でも淺さりしたものを二品ばかり見つくろッておくれあト云ふにボーイの姉さんが「左樣ならオムレッとカツレツに致しませうと云へば客ハ少し憤として「エ、ソンな挿み言葉じやァ我にや解りやアしねへ

○考へもの

お經ハ二階でのべ鏡み　數字　四ッ

四字にて北陸道の港名下から讀ば差對ひの詞ハ何よ

○謎

兩面硝子の時計とかけて人力車の相乗り

ろの心ろハ何ことでせう

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

中村敬宇先生序 湯目北水先生編纂
○歐米女權 全壹冊 定價三十錢 郵便税四錢

成嶋柳北先生序 副嶋種臣先生閲 曾根俊虎著
○清國漫遊誌 正價金四十五錢 郵税自便

東條竹翠著
○繪入かなつき婦女庭訓の眞鏡 全壹冊 定價三十錢 郵便税四錢

七條峯太郎編輯
○女子必携女子作文楷梯 鼇頭作文要用字類 和製中本全壹冊 定價金貳拾貳錢 郵便税四錢

滑稽新話
○明治流行うそ八百 壹冊正價二十錢 郵税四錢

漢馬融撰 日本佐藤梘先生旁釋
○忠經旁釋 木板手刷 正價拾錢 郵税四錢

○明治英名傳 正價金三十錢 郵税共

○人命保險人間長壽法 正價郵税共三十錢

○東京高名鑑 正價二十五錢 郵税共

此書ハ府會議員、區會議員、新聞記者、演説者、詩文書畫の先生、代言人、等を掲載したる重寳の本なり

一右書籍の外逐次出板書籍廣告仕候間續々御注文を乞ふ

千葉師範學校體操教師馬場壽先生著
○訂正增補小學徒手體操新書 美本全一冊 第二版 定價八錢 郵税二錢

馬場壽先生著
○啞鈴體操新法 美本全一冊 定價金十錢 郵税金二錢

馬場壽先生著
小學生徒美容術 全一冊定價金六錢郵税二錢

馬場壽先生著
訂正增補小學徒手体操新書圖解 定價金六錢 郵便税二錢

農學士萠地熊太郎編述
○化學理論一班 全一冊 定價金二十錢 郵便税金六錢

嶋津倉治編輯
○明治新刻日本溫古類聚 全壹冊 定價金三十錢 郵便税金六錢

小池民次序 馬場壽著
新撰小學遊戲書 全一冊 洋本仕立小本 插密圖 定價金拾五錢 郵税金四錢

千葉本町壹丁目
立眞本舍

東京大賣捌所
績文舍

十九年三月十三日發兌
團々珍聞五百三十五號目錄

一洒蛙説（しやあせつ） 旅は道づれ（たびはみちづれ）
一珍報（ちんぱう） 種々（くさぐさ）
一狂書（きやうぐわ） 蛸の開嘩の圖（たこのかいくわつ）○早取謝賓の圖（はやとりしやりんつ）
一和漢欄（わかんらん） 狂詩歌句都々一（きやうしかくどいつ）
一出放題（でほうだい） 變語解答幷に新題（へんごこたへならびにしんだい）
一英和對譯（えいわたいやく） 一擧兩便（いつきよりやうべん）○耶蘇信心の女及（やそしんじんのそんな） これと問答したがる友（さも）
一內外奇譚（ないぐわいきだん） 滑稽瀛車栗毛（こつけいとうきやうかくしやくりげ） 第六回
一一週要報（しうえうはう） 種々○東京各新聞社説 表（くさぐさとうきやうかくしんぶんしやせつひやう）

發行所 東京神田雉子町 團々社
大賣捌 同 同 巖々堂
同 安藝國廣島大手筋一町目 早速社

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

▲成刻賣大發廣告

小池民治君序
馬場壽君著

▲新撰 小學遊戯書 全 價金拾五錢

右書先キニ廣告仕候處諸府縣諸先生ヨリ陸續御注文ニ預リ弊舍幸榮之レニ過キズ然ルニ何分ニモ製本間ニ合ハズ遺憾ナガラ配達御斷リ申上候モ成刻仕候間正金又ハ郵便切手有之候處今般數万部御代用御隨意ニテ澤山御注文伏テ奉願上候尚多數御求メノ御方ニハ割引差上申候也

明治十九年二月

千葉本町
出版書肆立眞本舍

上總市原郡石川
長峰書舖

大賣捌
東京本郷春木町
美滿津体操器械店

●書籍店開設

今般商業擴張ノ爲メ千葉立眞舍ト東京石川書肆ト商議ノ上千葉本町壹丁目四番地ニ石川代理店立眞舍ト稱シ書籍並ニ學校用器具販賣店ヲ開設シ從來之習慣ヲ一洗シ代價ハ總而廉下ヲ旨トシ購求諸君ノ便宜ヲ謀リ御註文品切ノ節ハ時々馬車便ヲ以テ東京本店ヘ取寄セ迅速御配達可仕候就テハ諸學校生徒諸君警察官吏諸君ニ限リ代價一時ニ拂渡不相成候モ月賦或ハ再三ノ拂込ニテモ諸君ノ都合ニ任シ御相談可仕候間多少ニ不限御用向被仰付度所テ此段廣告候也

千葉本町壹丁目四番地
石川代理店立眞舍

佛國女學士路易達爾克原著
東京大學敎授櫻井省三君閲
伊藤重固君譯
山成哲造君校

西洋束髮秘傳 附 化粧祕傳 全一册美本

密書廿七入定價・錢郵税共六十四錢

此書は西洋に名高き佛國風の束髮及化粧の秘法を示すものにて種々の束髮を自身に爲し得る法を説明し其他髮の治療法を數多傳授せり又化粧術は我邦にて思付さる奇術多し御講讀の上御試驗あらんとを乞ふ

東京神田雉子町
大賣捌所 團々社支店

發行所
東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地
積文舍

持主兼印刷人 松本義弘
編輯人 山田常治

女學叢誌賣捌所

東京芝區愛宕町一丁目三番地 大賣捌所 修正堂
同 神田區淡路町 同 巖々堂

同 神田區雉子町	團々社
同 日本橋區新葭町	長明堂
同 牛込肴町十七番地	活神堂
同 芝區愛宕下町二丁目	高槻堂
同 蠣殼町貳丁目	信文堂
同 本郷區本郷元富士町二番地	盛春堂閣田
同 同 本郷春木町貳丁目	解明堂
同 神田區佐柄木町廿一番地	東海堂
同 牛込區牛込神樂町	積善舍
大坂府備後町四丁目	岡嶋支店
千葉縣千葉本町一丁目	立眞舍
藝州廣嶋大手町一丁目	早速社
江州彦根西内大工町	新々堂
陸前國仙台大町四丁目	木村文助
越後國長岡裏壹之町	大橋書房

驛遞局認可

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY